

オプトアウトの掲示方法について

☒ 当院ホームページ ☐ 部署掲示板

題名：機械学習と臨床データを用いたペースメーカーと CRT の選択支援モデルの構築

当院では、下記の臨床研究を当院倫理委員会の審査を経て病院長の許可のもと行っています。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、あなたの診療情報や検査などで残った検体の下記の研究への利用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして研究に利用させていただきます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用するまたは提供されることを希望されない場合、また研究に関する質問等ございましたら、下記に記載している問合せ先へご連絡下さい。利用を希望されないことが今後の診療に何らかの影響を与えることは一切ありません。

研究課題名 (承認番号)	機械学習と臨床データを用いたペースメーカーと CRT の選択支援モデルの構築 (2025-14)
当院の研究責任者 (所属)	徳留 大剛 (臨床工学部)
他の研究機関および 各施設の研究責任者	神奈川工科大学 健康医療科学部 臨床工学科 川崎 路浩
本研究の目的	ペースメーカーと CRT (心臓再同期療法) のいずれが適切かを判別するモデルを構築し、そのモデルの精度、および有用性について基礎的検討をおこなうことを目的とする。
研究の方法 (利用する試料・情報)	ペースメーカーや CRT の適応となった患者を対象に年齢、身長、現病歴、薬歴、12 誘導心電図、NYHA 分類、糖尿病の有無、デバイス使用歴、血圧、血液検査データ、心臓エコー検査データ [LVEF (左室駆出率)、RVP (右心圧)、RAP (平均右房圧)、CI (心経数)、SVI (1 回心拍出量)、LVDd (左室拡張末期径)、LVDs (左室収縮末期径)、LVEDV (拡張期左室容量)、LVESV (収縮期左室容量)、%FS (左室内径短縮率)、LVDP (左室拡張能)、RVDd (右室拡張期経)、RVEDV (右室拡張終末容量)、RVESV (右室収縮終末容量) RVEF (右室駆出率)、RVSP (右室収縮期圧)、RA 圧 (右房圧)] といった臨床情報を説明変数として用い、XGBoost にて機械学習をおこなう。 k 分割交差検証を用いて過学習の抑制を図り、汎化性能を確認する。評価指標には、Accuracy、F1 スコア、AUC (Area Under the Curve) などを用い、多角的な観点からモデルの妥当性を評価する。 研究実施期間：2025 年 7 月～ 2026 年 6 月
利用する試料・情報の 該当期間	1996 年 1 月～ 2025 年 4 月

試料・情報の他の 研究機関への提供 および提供方法	パスワード付の電子データをセキュリティ機能つき USB メモリにて受け渡し
個人情報の取り扱い	利用する試料・情報から、氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたします。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：045-474-8111 (代表) メールアドレス：kenkyu@yokohamah.johas.go.jp 担当者：徳留 大剛 (所属：臨床工学部)
備考	